

“早期解決なぜ悪い？”

水俣病署名運動者 患者側に公開質問状

水俣市で行なわれた水俣病患者の行政的救済などを含んだ署名運動に、先に患者側が「チツソの責任を回避しているのはなぜか」などの質問状が出されたが六日には逆に署名運動者の一部から「水俣病の早期解決、患者の将来にわたる救済を訴えるのがなぜ悪いか」といった公開質問状が出された。

質問状は、旅館業や建設業者など六人の実名入りで一単に補償問題が解決しただけでは、患者の将来にわたる対策が立ったとは言え

ない。署名趣旨には患者の治療と看護などをうたっている。これらに目をつむるのですか」など五項目がある。全市にこのヒラが配られた。

署名運動に対しては、社会党や水俣病市民会議などは強い批判の立場をとり、新認定患者の川本輝夫さん(四)ら十八人は、署名運動発起人に対し運動の趣旨を聞くため会合を申し入れている。署名運動は二つあるが、自民党支部長穂富昌文氏らが「万人を越え、市民

公害対策協議会(池松信夫代表)グループが一万四千人を越え、それぞれ市に働きかけをしている。いずれも一部ニュアンスの違いはあるが、行政的救済と早期解決を訴えている。このため両者で一致するものは、共同で運動を展開する「連合体」組織が話し合われている。

なお、自民党などのグループは、九日に市役所で新認定患者と話し合いたいと患者側に申し入れている。